

平成 13 年度 ワーキンググループ報告

担当理事 福田 寛

日本核医学会では、その時々必要性、緊急性に応じて機動的に研究を行うグループに研究費を配分して学会全体の利益に繋がるような研究を推進している。平成 13 年度は 10 のワーキンググループが活動を行った。本号では 6 グループの研究成果最終報告、2 グループの中間報告を掲載する。

オクトレオスキャンワーキンググループ(最終報告)

代表 遠藤 啓吾 (群馬大学核医学科)

脳血流 SPECT と MRI の痴呆診断能の比較および多施設の

読影者間の読影能の変動の検討(最終報告)

よりよい核医学診療のために

代表 町田喜久雄 (埼玉医科大学総合医療センター放射線科学教室)

心電図同期心筋 SPECT (gated SPECT) の普遍化に関するガイドライン(最終報告)

代表 西村 恒彦 (京都府立医科大学放射線科)

PET 核医学ワーキンググループ(最終報告)

代表 福田 寛 (東北大学加齢医学研究所)

呼吸器核医学ワーキンググループ(最終報告)

代表 檜林 勇 (大阪医科大学放射線科)

頭頸部腫瘍患者における sentinel リンパシンチグラフィの有用性と

cost-effectiveness(最終報告)

代表 小須田 茂 (防衛医科大学放射線科)

放射性同位元素使用後の排気、排水および廃棄物に関わるガイドライン作成

(中間報告)

代表 小泉 満 (癌研究会附属病院アイソトープ部)

核医学初学者のためのティーチングファイル(CD)の作成(中間報告)

代表 菅 一能 (山口大学医学部放射線科)